

Subject : **Japanese**Production of Courseware  
 - Content for Post Graduate CoursesPaper No. 02 : **日本語学 (Japanese Linguistics)**Module 17 : **並列 (Coordination)****Development Team****Principal Investigator:****Prof. Anita Khanna**

Jawaharlal Nehru University, New Delhi

**Paper Coordinator:****Prof. Prashant Pardeshi**

The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL)

**Content Writer:****Prof. Hideki Kishimoto**

Kobe University

**Content Reviewer:****Prof. Prashant Pardeshi**


The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL)

Japanese

Japanese Linguistics

並列 (Coordination)

Description of Module	
Subject Name	Japanese
Paper Name	日本語学 (Japanese Linguistics)
Module Title	並列 (Coordination)
Module ID	JPN-P02-M17
Quadrant 1	E-Text

 ePathshala  
पाठशाला  
A Gateway to All Post Graduate Courses

Japanese

Japanese Linguistics

並列 (Coordination)

## へいれつ 並列

もくてき もくてき へいれつ がいねん かいせつ へいれつこうぶん  
**目的**：このモジュールの目的は、並列の概念を解説するとともに、並列構文にはどのようなタイプのものがあるかについて紹介することである。

### きほんてきせいしつ 1. 基本的性質

へいれつ いじょう かず ようそ じゅうようど さ れつ なら  
 並列とは、2 つまたはそれ以上の数の要素が重要度の差をつけずに列のように並べられることを指す。日本語では、並列は、語のレベルでも節（文）のレベルでも起こる。

ご お へいれつ  
 語のレベルで起こる並列は、たとえば、(1) のようなものがある。

きのう おがわ ほん か  
 (1) 昨日、小川くんが本とノートを買った。

せつぞくじよし もち めいし へいれつ かのう ぶんちゅう ほん  
 接続助詞の「と」を用いると、名詞の並列が可能で、(1) では、文中の「本」と「ノ

と」という 2 つの名詞が対等な関係（並列の関係）で結ばれている。そして、名詞が

へいれつ ぶん ほん どうじ か いみ  
 並列されることにより、(1) の文では、「本」と「ノート」を同時に買ったという意味

あらわ  
 が表されている。

つぎ せつ ぶん へいれつ れい できごと へいれつ お  
次に、(2)～(5)は、節(文)レベルの並列の例で、2つの出来事が並列して起こった  
あらわ  
ことを表している。

たなか な やまだ わら  
(2) 田中さんは泣いた。そして、山田さんは笑った。

たなか な やまだ わら  
(3) 田中さんは泣いたが、山田さんは笑った。

たなか な やまだ わら  
(4) 田中さんは泣いて、山田さんは笑った。

たなか な やまだ わら  
(5) 田中さんは泣き、山田さんは笑った。

れい い みてき たいとう かんけい ぶん せつ なら  
(2)～(5)の例では、意味的に対等な関係をもった2つの文や節が並べられている。(2)

せつぞくし もち どりつ ぶん へいれつ せつぞくじょし  
は、**接続詞**の「そして」を用いて、独立の文が並列されている。接続助詞の「が」で

せつぞく さいしょ せつ けいしきじょう どりつ ぶん どりつ ぶん そうとう  
接続された(3)の最初の節は、形式上は独立した文ではないが、ほぼ独立の文に相当

しめ さいしょ へいれつせつ じゅつご けい さいしょ  
するふるまいを示す。また、(4)の最初の並列節の述語はテ形をとり、(5)の最初の

へいれつせつ じゅつご れんようけい さいしょ せつ どうし  
並列節の述語は連用形をとっている。(4)と(5)の最初の節において、動詞はどちらも

じせい けいたいてき くべつ せつ あらわ けいしき しゅご じゅつご そな  
時制が形態的に区別される節に現れる形式をもっていないが、主語と述語が備わって

せつ へいれつ お へいれつ かなら  
いるため、(4)と(5)でも、節の並列が起こっていることがわかる(並列されたもの必

しゅご あらわ いみてき しゅご じゅつご かんけい にんてい  
ずしもすべてに主語が現れないこともあるが、意味的に主語と述語の関係が認定され

ばあい せつ へいれつ お かんが へいりつ ようそ  
る場合には、節の並列が起こっていると考えられる)。並立する要素は、「と、か、

に、も、たり、なり」などの接続助詞によって接続されるか、「そして、しかし、あるいは

は」などの接続詞によって接続されることが多い。また、テ形述語や連用形述語をとる

形式で並列の意味を表すことも可能である。なお、(4) と (5) には、接続助詞や接続詞

が現れていないが、テ形述語や連用形述語の後に（少しポーズをおいて）「そして」

のような接続詞を入れることも可能である（例：「田中さんは泣いて、そして、山田さ

んは笑った。」「田中さんは泣き、そして、山田さんは笑った。」）。

(4) や (5) のように、並べられる 2 つの節のうちの前方の節が動詞のテ形、あるいは

連用形をとった場合には、（お互いが対等の関係である）「並列」以外の意味を表す

ことがある。前方の節がテ形動詞となる場合、節の間の関係として、「原因（例：

野菜を食べて、元気になった）」「手段（例：鍵を使って、ドアを開けた）」「付帯

状況（例：テレビをつけて、勉強する）」などの関係を表すことができる。これらの

場合、2 つの節は、等位接続の関係ではなく、一方が他方に依存する関係を表す

従属接続の関係にあると考えられる（複文のモジュールを参照）。

並列においては、並べられた要素が対等の立場に立つ。この関係は、従属関係とは

異なる。並列された 2 つの要素は、順番を入れ替えても、基本的な意味は変わらない。

たとえば、(6) は (1) と同じ意味、(7) は (2) と同じ意味を表している。

きのう おがわ ほん か  
 (6) 昨日、小川くんがノートと本を買った。

やまだ な たなか わら  
 (7) 山田さんは泣いた。そして、田中さんは笑った。

ぶん ほん どうじ か あらわ  
 (6) と (1) の文は、ともに「本」と「ノート」の 2 つを同時に買ったことを表している。

どうよう ぶん やまだ な できごと たなか わら  
 同様に、(7) と (2) の文も、「山田さんが泣いた」という出来事と「田中さんが笑った」

できごと なら お あらわ へいれつようそ  
 という出来事が並んで起こったことを表している。(6) と (7) の並列要素は、(1) と (2)

ぎやく じゅんじよ あらわ ぶん い み か  
 とは逆の順序で現れているが、文の意味は変わらないのである。

へいれつ い み あらわ へいれつじよし へいれつ さいご ようそいがい ようそ あらわ  
 並列の意味を表す**並列助詞**は、並列されている最後の要素以外の要素に現れるこ

おお さいご ようそ じよし じよし  
 とが多いが、「か」や「と」は、最後の要素にも助詞をつけることができる（助詞をつけてもつけなくてもよい）。

ただ さいとう き  
 (8) 多田さんと齊藤さん（と）が来た。

ただ さいとう く  
 (9) 多田さんか齊藤さん（か）が来る。

もち へいれつ あらわ ばあい へいれつ さいご ようそ  
 ただし、「に」や「や」を用いて並列を表す場合には、並列されている最後の要素に

じよし ふ か  
 助詞を付加することができない。



(10) リンゴに、ミカン<sup>た</sup>を食べた。 (\*リンゴに、ミカン<sup>た</sup>に<sup>を</sup>食べた。)

(11) リンゴやミカン<sup>た</sup>を食べた。 (\*リンゴやミカン<sup>た</sup>や<sup>を</sup>食べた。)

(\*のマークは非文法的であることを示す。)

これに対して、「たり」を用いて並列関係を指定する場合は、すべての並列された要素に「たり」をつける必要がある。

(12) 立<sup>た</sup>ったり座<sup>すわ</sup>ったりした。 (\*立<sup>た</sup>ったり座<sup>すわ</sup>った。)

(13) リンゴなりミカン<sup>た</sup>なりを食べる。 (\*リンゴなりミカン<sup>た</sup>を食べる。)

接続詞「そして」「しかし」「かつ」「および」は、並列された後ろ（最後）の要素のあと<sup>あと</sup>お<sup>お</sup>後には起こらない。したがって、「リンゴおよびミカン」という言い方は可能でも、「\*リンゴおよびミカンおよび」という言い方は不可能である。

並列は、同じ立場の要素を複数並べるので、3つ以上の要素を並べることも可能である。これは、節の並列であっても語の並列であっても同様である。

(14) 木村きむらさんがお鍋なべを洗い、田中たなかさんが食器しょっきを出し、松本まつもとさんがテーブルふを拭いた。

(15) 本ほんとノートかとペンかを買った。

従属接続じゅうぞくせつぞくをしている場合は、同じ要素ばあいを複数並べることはできない。たとえば、「と」

で導かれる引用節みちびは繰り返せない（たとえば、「\*私わたしは、[彼かれが来た]と[彼かれが走った]と  
言った」いのような表現ひょうげんはできない）。

## 2. 語の並列

語と語ご（あるいは名詞と名詞）を並置する助詞へいれつには、「と、に、や、も、か」など  
がある。その他にも「ならびに、および」などの接続詞ごに分類される表現めいしで名詞を  
並列ごすることも可能である。並列された要素ほかの表す意味せつぞくしの下位分類ぶんるいとして、  
「全部列挙」ひょうげん「例示」めいし「累加」へいち「選択」じょしという意味いみを考かんがえることができる。

「全部列挙」ぜんぶれっきよの用法ようほうでは、並列されるものが全部あげられるという語用論的な  
意味合いみあいが生しょうじる。並列助詞へいれつの「と」が使つかわれている (16) の例は、通訳れいの話つうやくせる言語はな  
は、英語えいごとドイツ語ごの2カ国語かこくごだけであるという意味合いみあいがある。

(16) この通訳つうやくは、英語えいごとドイツ語ごが話はなせる。



「英語とドイツ語」を「英語およびドイツ語」という表現に置き換えると少し堅い表現になるが、全部列挙という意味自体は変わらない。ただし、「全部列挙」は、語用論的な含意に過ぎないので、(16)の文の後に「ロシア語も話せる」という文を続けても矛盾することにはならない。この場合、英語とドイツ語以外にもロシア語が話せることになり、(16)の文における英語とドイツ語だけを話すという「全部列挙」の語用論的な含意はキャンセルされる。

「例示」は、代表例をあげる並列表現である。例示を表すには、(17)の「～や～(など)」のような表現を用いることができる。

(17) ヨーロッパやアメリカ(など)には、ここ何年も行ったことがない。

例示を表すには、「～とか～とか」「～なり～なり」などの表現を用いることもある。

(18) ヨーロッパとかアメリカとかに行った。

例示の場合は、必ずしも複数の名詞が並列に並べられるとは限らず、(19)のように

名詞1つでも文は成立する。

(19) わたし ほっかいどう い  
私は、北海道とかには行ったことがない。

(19) では、「とか」で結ばれる名詞は文中に「北海道」の1つしか現れておらず、  
ろんりてき い み ほっかいどう い  
論理的な意味は、「北海道に行ったことがない」ということであるが、そこには（行っ  
けいけん ふくすう ばしょ そんざい あんじ  
た経験のある）複数の場所の存在が暗示されている。

つぎ るいか い み あらわ ぶん つぎつぎ ついか  
次に、(20) の「に」は、「累加」の意味を表し、(20) の文には、次々と追加してい  
い み  
くという意味がある。

(20) にんじん だいこん  
人参に、大根に、ピーマンがほしいです。

ろんりてき い み にんじん だいこん ひつよう るいか  
(20) の論理的な意味は、人参、大根、ピーマンが必要であるということであるが、累加  
い み あらわ ばあい ひつよう かなら かぎ  
の意味が表される場合、必要なものが必ずしもすべてあげてあるとは限らない。たと  
にんじん だいこん ほか ごようろんてき  
えば、人参、大根、ピーマンの他に、キャベツがほしいということも語用論的には  
じゅうぶんかんが  
十分考えられる。

さいご へいれつ せんたく い み あらわ ばあい  
最後に、「並列」において「選択」の意味を表す場合、「か」「または」「もしくは」  
つか せんたくし なら  
は」などを使って、(21) のように選択肢を並べる。

(21) <sup>こうちゃ</sup> の <sup>の</sup> コーヒーか紅茶を飲みます。

(21) のように「<sup>こうちゃ</sup> コーヒーか<sup>せんたくし</sup> 紅茶」という<sup>ていじ</sup> 選択肢を<sup>ばあい</sup> 提示する場合、<sup>こうちゃ</sup> コーヒーあるいは<sup>の</sup> 紅茶の<sup>いっぽう</sup> どちらか一方が<sup>えら</sup> 選ばれることになる。つまり、<sup>わしゃ</sup> 話者は、<sup>どうじ</sup> 同時に<sup>こうちゃ</sup> コーヒーと<sup>の</sup> 紅茶を<sup>飲む</sup> 飲むのではなく、<sup>いっぽう</sup> どちらか一方を<sup>飲む</sup> 飲むことを<sup>い</sup> 意図して、<sup>ぶん</sup> (21) の文を<sup>はつわ</sup> 発話するのである。

### 3. <sup>せつ</sup> <sup>へいれつ</sup> 節の並列

<sup>さき</sup> 先にも<sup>み</sup> 見たように、<sup>せつ</sup> <sup>へいれつ</sup> 節を<sup>ほうほう</sup> 並列する方法はいくつかある。また、<sup>ご</sup> <sup>めいし</sup> <sup>へいれつ</sup> 語（名詞）の<sup>並列</sup> 並列の場合と同じように、<sup>ばあい</sup> <sup>おな</sup> <sup>へいれつ</sup> <sup>せつ</sup> <sup>へいれつ</sup> <sup>せつ</sup> <sup>へいれつ</sup> <sup>せつ</sup> <sup>へいれつ</sup> 並列される<sup>節</sup> 節（<sup>並列節</sup> 並列節）が<sup>もつ</sup> <sup>こと</sup> <sup>の</sup> <sup>できる</sup> <sup>意味</sup> <sup>関係</sup> <sup>にも</sup> <sup>いく</sup> <sup>つか</sup> 持つことのできる<sup>意味</sup> 意味関係にも<sup>いく</sup> <sup>つか</sup> いくつかの<sup>しゅるい</sup> 種類があり、<sup>せつ</sup> <sup>へいれつ</sup> 節の<sup>並列</sup> 並列でも「<sup>ぜんぶ</sup> <sup>れっきよ</sup> 全部列挙」、<sup>れいじ</sup> 「例示」、<sup>るいか</sup> 「累加」、<sup>せんたく</sup> 「選択」などの<sup>い</sup> <sup>み</sup> 意味を表すことができる。

<sup>へいりつ</sup> 並立した<sup>2</sup> 2つの<sup>せつ</sup> <sup>ぜんぼう</sup> <sup>せつ</sup> <sup>ない</sup> <sup>じゅつご</sup> <sup>けい</sup> 節のうち<sup>ぜんぼう</sup> 前方の<sup>節</sup> 節内の<sup>述べ</sup> 述語が<sup>てい</sup> <sup>けい</sup> テ形になっている<sup>(22)</sup> (22) は、「<sup>ぜんぶ</sup> <sup>れっきよ</sup> 全部列挙」の<sup>い</sup> <sup>み</sup> 意味を表す。

(22) <sup>はなこ</sup> <sup>おんがく</sup> <sup>す</sup> 花子は<sup>たろう</sup> <sup>えいが</sup> <sup>す</sup> 音楽が好きで、太郎は<sup>えいが</sup> <sup>す</sup> 映画が好きだ。

ぜんぶれっきよ あらわ ぶん がいとう ごようろんてき い み あ  
 全部列挙を表す文では、該当するものがすべてあげてあるという語用論的な意味合いがある。

つぎ もち れいじ い み あらわ  
 次に、「たり」が用いられている (23) は、例示の意味を表す。

こども た おとな すわ  
 (23) 子供が立ったり大人が座ったりした。

れい こども た こうい おとな すわ こうい おこな  
 (23) の例では、子供が立つという行為と大人が座るという行為が行われたことになる。

てんけいてき れいじ もち いがい こうい おこな ご  
 「たり」は典型的に例示に用いられるので、それ以外の行為も行われているという語用論的な意味合いがある。

れい じよし しょう るいか い み あらわ  
 (24) の例は、助詞の「も」が使用されているが、「累加」の意味を表す。

かれ さいのう じつりょく  
 (24) 彼には才能もあり実力もある。

ともな るいか い み けんちよ あらわ ぼあい  
 (24) は、「も」を伴っていることで、累加としての意味が顕著に現れる。この場合、

ごようろんてき へいれつ げんきゆう いがい るいか せんざい  
 語用論的には、並列により言及されているもの以外に、累加されるものが存在しても

かま  
 構わない。

せつ                                      せんたく                      い み                      せつぞくじょし                                      せつぞくし  
節レベルにおいて、「選択」の意味は、接続助詞の「か」や接続詞の「あるいは」

もち                      あらわ  
「また」を用いて表すことができる。

たなか                      ひ                      き ど                      ひ  
(25) 田中さんがくじを引くか、木戸さんがくじを引くかだ。

ひ                      たなか                      き ど                                      にしゃたくいつ                      い み  
(25) は、くじを引くのは、田中さんか木戸さんかのどちらかという二者択一の意味を  
あらわ                                      ぶん                      つうじょう                      たなか                      き ど                      りょうほう  
表している。したがって、(25) の文は、通常、田中さんと木戸さんの両方がくじを  
ひ                      かいしゃく  
引くとは解釈されない。

せんたく                      い み                      あらわ                      せつ                      へいれつ                                      せんたくぎもんぶん                      かたち                      あらわ                                      おお  
選択の意味を表す節の並列は、(26) のように選択疑問文の形で現れることも多い。

の                                      こうちゃ                      の  
(26) コーヒーを飲みますか、それとも紅茶を飲みますか？

ぶん                      こうちゃ                      の                      と                      ぎもんぶん  
(26) の文は、コーヒーと紅茶のどちらを飲むのかを問う疑問文である。(26) において、  
わしゃ                      こうちゃ                      いっぽう                      の                      き                      て                      たい                      きたい  
話者は、コーヒーか紅茶のどちらか一方を飲むことを聞き手に対して期待する。したが  
き                      て                      こうちゃ                                      へんとう                                      ふかのう  
って、聞き手が「紅茶もコーヒーもいただきます」と返答するのは、不可能ではないか  
い                      わかん                      しょう                                      りゆう                      かぎ                      りょうほう                      せんたく  
もしれないが、違和感が生じる。よほどの理由がない限り、両方ともを選択するとい  
てきせつ                      こた                                      たい                                      い  
うのは、適切な答えとはならないのである。これに対して、どちらも要らないというこ

とは、<sup>じゅうぶん</sup>十分にありうる。したがって、(26) に対して、「<sup>たい</sup>コーヒーも<sup>こうちや い</sup>紅茶も要りません」と答えても問題はない。

#### 4. 並列節の否定

並列の関係にあるテ形節は、否定形にすることができる。テ形節に含まれる述語が動詞の場合には、(27) と (28) で示されているように、「ないで」と「なくて」という2つの否定形をつくることができる。

(27) 前田さんが合格<sup>まへだ ごうかく</sup>し<sup>さいとう ごうかく</sup>なくて、齊藤さんが合格した。

(28) 前田さんが合格<sup>まへだ ごうかく</sup>し<sup>さいとう ごうかく</sup>ないで、齊藤さんが合格した。

並立の用法をもつ (27) と (28) では、2つの節が対比的に解釈されるという点では同じである。しかし、2つの否定のテ形は、前に動詞が現れる時のみ可能であり、形容詞(イ形容詞) や形容動詞(ナ形容詞) あるいはコンピュータの場合は、「美しくなくて」「静か<sup>しず</sup>でなくて」「学生<sup>がくせい</sup>でなくて」のような「なくて」の形しかない。

テ形述語や動詞の連用形で並列されている節では、後続節が否定された時、先行するテ形節は否定の解釈が得られない。



(29) 田中<sup>たなか</sup>さんは泣<sup>な</sup>いて、山田<sup>やまだ</sup>さんは泣<sup>な</sup>かなか<sup>な</sup>かった。

(30) 田中<sup>たなか</sup>さんは泣<sup>な</sup>き、山田<sup>やまだ</sup>さんは泣<sup>な</sup>かなか<sup>な</sup>かった。

(29) と (30) は、田中<sup>たなか</sup>さんは「泣<sup>な</sup>く」行為<sup>こうい</sup>を行<sup>おこ</sup>なったが、山田<sup>やまだ</sup>さんは「泣<sup>な</sup>く」行為<sup>こうい</sup>を行<sup>おこ</sup>っていないと解釈<sup>かいしゃく</sup>される。このように、(29) と (30) において、田中<sup>たなか</sup>さんは泣<sup>な</sup>いたのに、山田<sup>やまだ</sup>さんは泣<sup>な</sup>かなか<sup>な</sup>かったという解釈<sup>かいしゃく</sup>が得<sup>え</sup>られるのは、2 つ目の節にある否定要素<sup>め せつ ひていようそ</sup>の作用<sup>さよう</sup>が前の節に及<sup>ま</sup>ばないためである。これに対して、(31) の並列節<sup>たい</sup>の例<sup>へいれつせつ れい</sup>の場合<sup>ばあい</sup>には、2 つ目の節<sup>め せつ ひてい</sup>の否定<sup>さよう</sup>の作用<sup>め せつ およ</sup>が1 つ目の節<sup>め せつ ひてい</sup>に及<sup>ま</sup>ぶ。

(31) あの地震<sup>じしん</sup>では、食器棚<sup>しょっきだな</sup>が倒<sup>たお</sup>れたり食器<sup>しょっき</sup>が壊<sup>こわ</sup>れたりしな<sup>な</sup>かった。

「たり」<sup>もち</sup>が用<sup>へいれつ れい</sup>いられている (31) の並列<sup>せつ</sup>の例<sup>ひてい</sup>では、2 つの節<sup>かいしゃく う</sup>がともに否定<sup>め せつ</sup>の解釈<sup>かいしゃく</sup>を受け<sup>う</sup>る。したがって、(31) の文<sup>ぶん</sup>は、「食器棚<sup>しょっきだな</sup>も倒<sup>たお</sup>れな<sup>な</sup>かったし、食器<sup>しょっき</sup>も壊<sup>こわ</sup>れな<sup>な</sup>かった」と解釈<sup>かいしゃく</sup>される。

キーワード：

ご へいれつ せつ へいれつ せつぞくし せつぞくじよし へいれつじよし へいれつせつ ひてい  
語の並列 節の並列 接続詞 接続助詞 並列助詞, 並列節の否定

\*\*\*\*\*



Japanese

Japanese Linguistics

並列 (Coordination)